

発達障害児の子育てと保育について考えるための講演会

一般社団法人 A-TRUCK 北国分駅前しゃりっこ保育園
〒272-0837 千葉県市川市堀之内 3-18-25 グリーンマノリアル 2階

助成事業の概要

障害の有無に関わらず子育て支援に関する情報を入手しやすい時代である。

しかし、本やインターネットで得る情報はその時に自分が必要としているものを偏って取り入れてしまうことが多く、いつの間にか誤った情報や信念に変形してしまうことがある。

そのためそれに由来する傷つきから支援の対象である子どもや保護者、保育士を守るためにも正確な知識を体験的に身につけることが必要である。また、実際の支援はその地域、家庭、保育園など具体的な状況を踏まえることが必要であるため、講師と参加者の協働を図ることが必要と考えた。8月(A.子どもの保護者向け)、4月・11月・3月の3回(B.保育者向け)

(3月はコロナウイルス感染症拡大防止により中止した)

北国分駅前しゃりっこ保育園において開催した。多くの保育園を心理相談員として巡回すると同時に、小児科、精神科などの医療機関のカウンセラーとして、子どもの発達や情緒に関わる問題に対して地域に即した支援をおこなってきた臨床心理士に講師を依頼した。

事業の成果

発達に遅れのある子が保育園で困っていることがないように対応するために、事業を行ってきたが、この事業を通じて見えてきたことは、子どもよりも保育士が対応に困っている場面が多く、専門家

に相談しながら、的確な指示を仰ぎ、迷うことなく子どもとの対応ができたことが最大の成果ではないかと考えている。さらに、その自信が保護者対応での、対応力にもつながっていたのではないかと思う。

普段の対応が正しい対応なのか、その子の見立てがその子に合っているのか。など、悩みながら保育をする中で、専門家に年間を通して、その子の成長を追ってもらいながら、アドバイスをもらえることはとても、安心感につながったように思う。その安心感が、保育士の自信につながり、子どもへも良い影響が出ているように感じた。現場で困っていることを具体的に、第三者的な視点から見直すことによって、本児の困っている程度、解決への糸口がマニュアル的ではなく見出せたのではないかと考えている。

1年間を通じて一人の子どもにスポットを当て、成長を見守ってきたことについて、園全体でのコンサルテーションを開催することができ、時間をかけて話し合ったことは、園全体で、本児に対する対応も統一できたことがとても良かったように感じた。

さらに、小さいグループで話し合う機会を設けたことで、普段は言いにくいことも言葉にすることでみんなで考える問題として捉えられたのではないか。

さらに、保護者向け講演会では、小さい集団で専門家を交えての講演だったので、活発な質問が多く、普段あまりしゃべらない参加者であった父が、講演会の場で自身の言葉で相談したことには、大

きな進展を感じた。保育士ではなく、第三者の専門家である臨床心理士に相談できる機会はあまりないことなので、保護者も臨床心理士の専門性に接し、相談できたことは納得されたようだった。

■ 成果の広報・公表

今回の事業を通して、やはり常にキャリアアップ研修等を受けている保育士も、発達に遅れのある子ども達に対する対応には、悩みが多いことがよくわかり、その悩みを的確な指示で解決し、子どもの成長につながっていく姿には、専門家の年間を通して（ピンポイントでない）のコンサルテーションは、必要不可欠と感じた。特に、専門家がその子の成長をともに見てもらうことが必要だと、痛切に感じた。

保護者においても、普段から保育士には子育ての相談をしているが、発達の相談は、なかなかしづらいものなので、参加者は少なくはあったが、参加してくださった保護者は、やはり子育てに困難を感じている方ばかりであった。発達の相談に行くまでの勇気が無かったが、保育園で行われる講演会と言うことで少しは気軽に参加して頂けたようであった。

■ 今後の展開

継続的に同様の機会を設けることで、知識も含めて、学んだことをどの程度現場に生かすことができているか、できないとしたらなにが原因で、別のやり方としてどんなものがあるか、など、失敗やうまくいかなさから学び直すことができると考えるためそうしていきたい。

そのためにも学んだことと実践のモニタリング、数値化などもして具体的に課題を共有する必要があると考えている。

さらに、専門家とともに、一人の子どもを年数を

重ねて見ていき、共有することで、専門性がさらに高まるのではないかと考えている。そのことを、園全体で共有し、担当していない保育士のスキルアップにもつながるのではないかと考えている。

専門家に相談することで、問題の可視化や共有化など、保育園には未だ足りない発達の記録をし続けていくことのスキルアップにもつながるのではないかと考えている。